

欧州復興開発銀行

欧州復興開発銀行

札幌に於けるサハリンⅡ公開コンサルテーション

札幌、ANA ホテル

2006年4月10日（月）

司会：ナイジャル・キャンベルおよびピーター・デビット・ピーターセン

司会者：皆さん、こんにちは。欧州復興開発銀行、略して **EBRD** の今日のこの会議にご来場いただきありがとうございます。当銀行は、サハリン II フェーズ 2 プロジェクトへの資金供与につき、目下検討中です。その一環として銀行は、公開コンサルテーションの実施を計画しました。公開コンサルテーションのプロセスの一部として、一連の公開会議があります。

私はこの会議の企画と実施のために **EBRD** に呼ばれた中立のファシリテーター（促進者）で、ナイジェル・キャンベルと申します。この一連の会議は、最初 2 月にロンドンで開催されました。これまでこの会議は、3 月にモスクワで、同 3 月にサハリン島で 3 回（ノグリキ、ユジノサハリンスク、コルサコフ）開催され、そして今日、ここ札幌での会議が最後になります。ここ札幌でこの会議が開催される理由は、言うまでも無く、北海道がプロジェクトに隣接しているからです。

これらの会議では、**EBRD** の環境、社会、バンキング問題の専門家が、地元の利害関係者から彼らがプロジェクトによってどんな影響を受けるかを直接聞き取ることを目的としております。お分かりのとおり、ほとんどの皆様が今朝お会になったピーター・デビットが私といっしょに会議を進行します。彼がこの会議を主に日本語で進めますので、皆様はそれほど長く英語を聞く必要はないでしょう。

私の役割の一つは、私が参加した公開会議の全ての記録をとることで、その記録は **EBRD** の Web サイトで公開される予定です。銀行のため、および私自身の記録のために、この会議は録音されています。

これらの会議全てにおいて、マスコミの方の参加も大いに歓迎されます。活字メディアの方々は会議中どうぞご在席ください。ただし、もし発表者に何らかのご質問がある場合は、恐れ入りますがここにおりますプレス担当のバナラ・ベネットまでお尋ねください。参加者にインタビューをご希望の場合は、バナラにお知らせいただければ、コーヒーブレイク中にできるようにいたします。

カメラについては、このイントロダクションが終わったら、ただちに撮影を終了していただきますようお願いいたします。ただし、もしカメラ（テレビ局）が発表者にインタビューをご希望の場合は、お茶よりもインタビューの方を歓迎いたしますので、よろしくおねがいます。

会議および通訳の妨げになりますので、携帯電話のスイッチをお切りくださいますようお願いいたします。

サハリンエナジーから 1、2 名がここに参加しております。彼らはここではオブザーバーであり、また発表者に要請された場合に何らかの技術的補足をするでしょうが、言うまでもなく、これはサハリンエナジーの会議ではありません。これは銀行が主催する会議です。

ここで専門委員会のメンバーにマイクを渡します。マーク・キング氏が会議を始める前に **EBRD** について少々ご説明申し上げます。

ジーター：私は欧州復興開発銀行（**EBRD**）の環境部門で働いております、ジェフ・ジーターと申します。

キング：私はマーク・キングです。私も環境部門の者です。

アンドレイ・リジェンコ：私はアンドレイ・リジェンコです。**EBRD** のバンキング部門に勤めております。

キング：初めに簡単に会議の説明をさせていただきます。ごく短くです。まず、今日の午後、皆様の考えとご意見を我々と共有するために、ここにご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

はっきりさせておきますが、この会議の目的は、サハリンIIプロジェクトを進めるかどうかを決定することではありません。というのも、皆様が今朝、デビット・グレアのすばらしいプレゼンテーションをご覧になったとおり、プロジェクトはもうかなり進行しています。この会議は、プロジェクトに資金を提供するかどうか、プロジェクトへの出資コストを負担するかどうか、という点に関する、EBRDの決定に関わっています。

今日の午後、環境や社会問題に関する皆様のご意見や、皆様がお考えの問題がプロジェクトに関する我々の検討の中で見落とされていないかどうかをお聞きできれば、と思います。更にまた、緩和とモニタリング手段の適切さ、および、プロジェクトに対する環境的あるいは社会的な利益を向上させられるような何らかの更なる機会がないかどうか、について皆様のご意見を伺いたいです。これらの点について、皆様のご意見をいただければ、非常にありがたいと思います。

EBRDについては、JBIC同様、皆様にはあまり知られていないかもしれませんが、若干ご説明させていただきます。EBRDは、60の加盟国に加え欧州委員会、欧州開発銀行により所有、出資されている、という点で、ある意味では国連の銀行に似ている国際的な銀行です。日本も加盟国であり銀行の出資者です。日本はEBRDの理事会に席を占めています。

理事会は、出資者の観点に基づいてプロジェクトを決定します。理事会は、我々の様々な国々と部門のために、相手先国の戦略と部門戦略を承認する、ということを通じて、銀行の活動方法に方向性を与えます。銀行には環境に関する方針と手続きがあります。その中でこのプロジェクトは、環境影響アセスメントを必要とするレベル“A”のプロジェクトに分類されています。また、国境を越える影響の可能性もあるため、ここで日本の利害関係者の皆様からお話を聞くことに大変興味もっています。

我々は過去3年の間、我々の仲間であるJBICや他の潜在レンダー（英国輸出保険機関および米国輸出入銀行）と緊密に協調しながら、環境的、社会的、法的、経済的および資金的側面からこのプロジェクトを見してきました。

これらの作業の中で我々は、かなり多数の様々な分野、ある点に関してはかなり専門的な分野の専門家から助言を受けてきました。我々は今朝、クジラ委員会について話を聞きましたが、その他にも地震学、地震活動および様々なプロジェクトの技術要素の専門家がいます。

この間、レンダーの監視に応える形で会社（サハリンエナジー）は、レンダー向けのみならず、プロジェクトに必要な様々な許可を得るためのロシアの管理当局向けの大量の文書を作成してきました。ロシア当局向けの大量の作業は、TEOC文書に要約されています。国際様式EIA（環境影響アセスメント）は2003年に発行されました。最近発行されたオリジナルのEIAに追加された、様々な社会および環境に関する補遺や追加情報があります。また、まもなく発行される予定の先住民開発計画、油流出対応計画、および、今朝、簡単な説明のあった健康・安全・環境・社会の活動計画など、いくつもの文書があります。これ

らの文書は全て一般公開されます。この他に、プロジェクトの特定の側面をかなりの技術的レベルまで掘り下げた専門的な文書もあります。

今日のこの会議は、このプロジェクトに関する総合的な公開コンサルテーションプロセスの一部です。

我々はロンドンに始まり、モスクワ、サハリン島の3箇所（ノグリキ、首都ユジノサハリンスク、コルサクフ）などいくつかの他の会議を行いました。今回が最後の公式会議になります。

会議は公開コンサルテーションにおける非常に重要な要素ですが、それがすべてではありません。我々は、世界中の個人、NGO、様々な政府機関から文書による連絡やの Email などを受け取っています。我々は、NGO や政府機関などの利害関係者との二者間協議の場を持っています。実際のところ、コンサルテーションのこのプロセスは現在進行中です。過去数年に渡ってこのように行ってきました。確か、このプロジェクトが年次会議で集中的に議論されたのは2年前が最初で、それから毎年、年次会議で集中的に議論し、更に、特に NGO とともに年を通じて何度も議論してきました。

我々がこれまでに受け取った、そして今ここで受け取る意見や提案は、潜在的なレンダーのためだけでなくこのプロジェクトを強化することにも役立ちます。過去数年の間に行われたあらゆる徹底的な作業を経て、我々は現在、このプロジェクトは環境と社会問題がより改善され強化されたとなった、と公平に言うことができます。実際、サハリンエナジー社（以下 SEIC）自身が保有している一連の規範を見ると、この点について世界中の誰もがプロジェクトに期待するであろう標準の種類国際的ベンチマークを備えています。

このコンサルテーションプロセスから得られた全てのコメントは、理事会向けに要約され、理事会はこの夏中にプロジェクトに関する決定を下す予定です。

決定後ただちに、文書化された全ての協定が法的文書として支配力を持ちます。他のレンダーと協調しながら、我々はプロジェクトを非常に細かく監視する予定です。我々は、建設期間中、年最大4回のレンダー視察訪問を行い、その後の運用フェーズに入ったら定期視察訪問とプロジェクトの継続監査を行い、活動の集中する分野ではプロジェクトのモニタリングの観点から徹底的に行います。

もちろん、強制する、という意味合いもあります。全ての潜在的なレンダーがそうであり、会社がそうであるように、我々はこれらの問題を非常に真剣に受け止めています。我々が監視のみならず要求をつきつける、ということを確認することは我々にとっても重要です。多くの制裁措置が長い文書の中に組み込まれています。もちろん我々にとって究極の制裁措置は、出資から手を引き、融資金を返却させることです。願わくは、このような事態に至る前に問題が解決されるよう期待しています。それはプロジェクトへの融資の本意ではありません。

皆様に、少なくとも今日の午後の会議の基本をご理解いただくための説明は、これで十分だと思われま。幸い、今日の午前、プロジェクトの技術的側面についての要約がありました。私の短い説明と、今朝皆様がお聞きになったプロジェクトに関する説明が、今日の午後の議論で活かされるよう期待しております。

司会者（通訳）：ありがとうございます。ここから、私が司会を担当させていただきます。私は、英語だけでなく日本語にも精通している、という理由から、ナイジェル・キャンベル氏よりこの役に指名されました。

このセッションでは、皆様からの多くのご質問やご意見を伺います。その前にちょっと、登録シートにご注目ください。EBRDはこの会議に参加されている関係者の皆様について知りたがっています。もしご協力いただけるなら、この登録シートに記入して提出してください。また、会議の後で回収させていただくアンケートもあります。これは、会議がどのように行われたかに関するもので、皆様からの評価をお願いします。

それでは、質疑応答の対話セッションに入ります。ご質問がございましたら、どうぞ手を上げてください。お名前と所属をお願いします。同時通訳いたします。ですが、どうかゆっくりお話いただき、できれば文の間に通訳のためのポーズを入れていただきたくお願いいたします。

参加者（通訳）：さっきのコメントの中で、社会と環境に対して検討された、とおっしゃいましたが、SEIC側でどのような改善がなされましたか。SEICの方法はグローバル基準に達している、とのことですが、コメントのその部分は現実からそれているように見えます。すなわち、SEICによって行われた午前のプレゼンテーションでは、氷の海に対する油流出対策はまだ完全に配備されていない、ということでした。午前の会議では、年の中頃までにこれらが具体化され完成されるはずだ、とのことでした。油流出対応に関して、具体的な対策はまだ完了していないのです。このような状況の中で、SEICの手段が本当にグローバルスタンダードに達している、と述べることは公正ではありません。以上が私の意見と質問です。

キング：確かに、オープニングのコメントで私は、会社が現在適用している標準やベンチマークのセットについて述べました。油流出対応に関して会社は、プラットフォーム、陸上パイプライン、LNG（液化天然ガス）設備など様々な資産に対する油流出対応計画の詳細を準備中です。それぞれに対して独自の油流出対応計画があります。更にまた、包括的な協力対応計画もあります。

これらの各計画はロシア連邦の要件に従って作成されなければなりません。それが第一の、そして最も重要な要件です。更にそれらは国際的なベストプラクティスに従って準備されなければなりません。そこにレンダーの展望が入り込みます。我々は油流出対応計画の検証においてかなり専門的なコンサルティングを行っています。それらは現在、特定資産別の計画の検証を行っている最中で、特定資産別油流出計画の検証は今後数ヶ月を通じ、これらの計画がロシアの管理当局のタイムテーブルに組み込まれるまで、続けられる予定です。

全体的に見て、計画は期待される国際的なベストプラクティスの基準に達しています。コンサルタントはそこにおいて、それが実施されるのを確認します。それは我々の文書上での要件であり、プロジェクトが我々の基準を満たす、ということは、言うて見ればプロジェクトに対する法的要件でもあります。

参加者（通訳）：言い換えれば、油流出対応が検討中である限り、それはまだ完了していないということです。つまるところ、あなたはそのような認識をお持ちではないんですか。環境に対する対策はまだ国際基準に達していない、ということ述べているんです。そのように解釈できませんか。あなたは、現状とは異なるお考えをお持ちです。

キング：そのように解釈できる、ということには同意できません。我々の要求とロシア連邦の要求に準拠して作成されるべきこれらの計画に対するタイムフレームについて、レンダーのグループである我々は **SEIC** と合意しています。計画の作成には一定の時間が必要で、重要な点については最初の油生産の直前まで時間がかかる、ということは、この業界ではごく自然なことです。現在設定されているタイムフレーム、現在配備されている手段、これらの計画の実施は我々にとって受け入れ可能です。計画が作成されたとき、前に申しましたように我々の要件に従ってですが、そのときにベストプラクティスにかなうものになります。

参加者（通訳）：私はNGOの代表です。油流出がオホーツク海域で発生しました。ここは日本のマフィアとロシアのマフィアが密漁による不法取引を行っていたところです。その海域の天然資源は激減しました。私たちは不法の麻薬、犯罪、売春にさらされています。私たちは、ロシアの管理当局が賄賂を受け取るところを実際に見てきました。これらは全く手に負えません。そしてこんどはサハリンの石油資源あるいは埋蔵石油があるところでプロジェクトが賭けられています。ここでは予防手段が重要です。

私は、文化、ものの考え方、それ自身が問題だと思います。私たちはそこから始めなければなりません。ロシア、日本、合衆国、ヨーロッパの管理当局はそのような犯罪を厳重に取り締まるために協力しなければなりません。**EBRD** はその背後に権威、権力、政治力をもっているのだから、そこから始めるべきでしょう。事態は既に手に負えない状態です。西側の石油政策では、アジアやアフリカで天然資源を発掘していますが、これは本当に地元の人々、特に少数民族や先住民族に利益をもたらしていますか。ぜひ、そのような政策をとってほしいものです。

司会者：犯罪取締りのために銀行の影響力を利用することに関して、何が政治的問題であるか、発表者の皆さんからコメントはありませんか。

キング：私がここで述べるべきことは、様々な期待される事象を扱わなければならない、ということです。銀行はあくまでも銀行でして、できることは限られています。確かに、古い計画経済に変化をもたらして、それらを市場経済に移行させるという行政的な任務もあります。我々はその方向で、プロジェクトへの資金提供以上のことを多くしています。透明性と統治問題に関する政府との進行中の協議があります。銘記すべき重要なことは、プロジェクトと同様、これらの要素についても焦点をあてなければならないということです。それは、幸いなことに、SEIC自身が非常に気に留めていることです。社会の他のところには進行中の様々な問題があるかもしれませんが、プロジェクトの中においては、問題は優れた共同管理方法で処理されているので、我々は満足できると思います。

あなたはいろいろな問題をおっしゃっています。確かに密漁はこの海域における懸念事項です。人々が魚種資源の減少の責任を石油会社や他の産業の会社のせいにして魚資源の枯渇の話をするときに、そのこと（密漁）にはあまり触れられません。最終的にはこれら（会社の活動）が原因になっているかもしれませんが、そこには多数の密猟者がいて、その海域の魚資源に対して明らかにストレスになっている、ということ認識しなければなりません。

先住民に関しては、島の先住民族の経済的、社会的、文化的な発展の必要性をサハリンエネルギー同様、我々も非常に重視しています。計画の原案は作成されていますから、もしお望みであればかなり詳細な点についてもお話できます。その計画の作成に深く関与した専門家の一人がここにいます。計画は先住民の人々と共同で作成され、彼らの完全な同意を得ています。彼らは必要なだけの時間をかけて文化的に適切な方法で計画の準備に十分かつ積極的に参加しました。計画は先住民に対して年に30万ドルもの現実的、実用的な利益をもたらし、それは投資とみなされています。

その計画が一般公開されたときに、皆様から何らかのご意見をいただけることを非常にうれしく思います。

参加者（通訳）：私は年金生活者です。2つ質問があります。一つはエコシステムに関してです。アセスメント文書の中には、エコシステムについて強調したところがありませんでした。日本の場合、環境アセスメントの法律では、そのようなアセスメントが必要とされています。もちろん「エコシステム」という用語は非常に広い意味を持ちます。全ての項目を網羅するのは非常に困難です。それは財源とともに適時不可欠な人材を必要とします。エコシステムのためのそのような検討は、今年、日本の方式で行われるべきだと思います。今ここに出席している我々の多くは、エコシステムに深く関心をもっています。エコシステムの検討に必要な実践的なことは、ここ日本では非常に良く知られています。そのようなエコシステムの検討なしには、方法がグローバルレベルに達している、ということに心から同意できないと思います。私の二番目の意見は、抜粋（extraction）についてです。午前の会議では、利害関係者の定義が非常に広く解釈されているようでした。我々の多くは英語を理解しません。ロシア語、英語、そして日本語のレポートがありますが、英語版が優先優先すると述べられています。日本語版になると、非常に理解しにくい文章や表現があるのがわかります。もしロシア語版と英語版を比較すれば、ロシア語版が原本だとわかる、

あるいはそうらしいとわかるでしょう。ロシア語版の英語翻訳を見ると、科学的名称が不正確であったり、あるいはまた特定の用語や専門用語が不適切であることに気づくでしょう。それゆえ、**SEIC**は正確で的確な情報を提供していないか、あるいは、正確な情報を提供しようとする努力に失敗しているといえます。このような公開会議を行うに際し、正確で的確な情報を与えることが重要です。ですから**SEIC**には、そのような正確な情報の提供にもっと努力していただきたいです。

キング：エコシステムのアセスメントに関しては、今朝述べられたとおり、これは会社側だけでなくレンダーやレンダーのコンサルタントによるプロジェクトの検討課題の一つでした。我々は個々の生物種について切り離して見てはいません。我々はエコシステムのアプローチを見てきました。それは十分考慮されています。

翻訳に関しては、残念ながら私は英語しか話しませんので、それらがどのように翻訳されているかについてコメントすることができません。もし何らかの特別な問題や懸念があれば、おそらく**JBIC**の仲間にそれらを気づかせることができるのではないのでしょうか。我々は、文書中の表現に何らかの事実の曲解があったかどうかを調べることはできます。翻訳は常にとても能力が試される仕事です。最も単純な文章でも、様々な言語に翻訳される際にそれらの意味が失われることもあります。我々の前にあるような技術的文書の翻訳は、非常に能力を要する仕事です。もし特別なご意見がございましたら、会議の後でぜひ我々にご教示ください。

参加者（通訳）：私は北海道先住民族の地元**NGO**の代表です。今日、私は人間の問題に焦点を当てます。私は最初、この石油ガスプロジェクト対し地元先住民族が座り込み抗議を行っていることを伝えるメディアのレポート、地元のニュースなどを通じて、このプロジェクトに興味を持ち始めました。それがプロジェクトとの最初の出会いでした。それ以来、私は**JBIC**の会議と公開会議に参加してきました。

JBICの資金は日本市民が払った税金から来ているのですから、私は先住民族問題に対する**JBIC**の立場に興味があります。プロジェクトは北海道の近くで行われます。もし地元民の人権が無視されたり乱暴に扱われたりするならば、日本市民からの税金が使われるべきではないと伝えました。**JBIC**の回答はどうだったでしょう。それは、鳥類、魚およびクジラ類全てが、油流出と国境横断の影響を受ける、ということでした。そのために我々は情報交換が必要ですが、他国の人権という点になると、我々は特定の立場を表明する立場にない、というものでした。つまり、**JBIC**は人権問題には関与するつもりがない、ということでした。それが回答でした。

昨年5月の会議で彼らは、地元先住民との関係は良好だと言いましたが、その2日後、北海道の地元新聞のニュース報道によると、島の地元先住民が座り込みの抵抗を継続している、ということでした。ニュース報道と**SEIC**の言っていることの間には現在、不一致があります。今朝、サハリンエネルギーは、地元民

との関係は非常に良好であり、地元経済に対する会社の投資を通じて関係は改善されてはいるが、一見したところ、地元民は未だに不満を持っているようだ、と述べました。サハリンエナジーの社長は、地元民による反対運動の情報を知らされていない、と述べました。これは非常におかしいことです。

人々は自分に都合の良い情報だけを見たり聞いたりします。今朝の会議から、ここで発表されていることはそういうことです。彼らは関係は良い、といます。おそらく、ごく一握りの先住民、地元民の中のごく一部のグループだけがサハリンエナジーと良い関係を作っているのでしょう。地元先住民のご機嫌を取るための、権威当局による飴とムチは世界中どこにでもあります。問題は、要求があっても発言の機会を持たない地元先住民の声無き少数派です。私たちは彼らの声を聞かなければなりません。あなた方は、声無き少数派に耳を傾けるつもりがありますか。

年 30 万ドルという金額は円にすれば 1 年でたったの 4000 万円です。そのような金額で十分だとは思えません。地元民はサケやその他の漁業活動に依存しています。彼らはたった年 30 万ドルで、彼らの生活基盤の全てを失うのです。もし EBRD が、現在のやり方で十分だとお考えならば、私たちは EBRD の存在理由に疑問をもちます。

私たちは日本に住んでいて、先住民もいます。私はこれらの人々の活動に関与しています。私たちは税金を払います。そのお金はサハリン島の先住民の人権を侵害するために使われるのでしょうか。もし同じことがヨーロッパやヨーロッパ人に対して行われたら、あなた方はそれにたいしてどう対処しますか。

キング：我々は今や、数年にわたって島で働いています。我々には、先住民に集中的に携わる社会問題の専門家がいます。我々には、先住民の発展計画の準備や、我々自身のような社会問題に関する組織の方針について、広範な経験をもつ独立コンサルタントがいます。我々の経験では、サハリン島において何らかの方法で先住民の人権が侵されている、という証拠を見たことがありません。もしあなたがその点に関して具体的な目撃や証拠をお持ちでしたら、もちろん、我々はそれをお聞きしたいと思います。我々が見てきたところでは、特に最近 2 年間のことですが、SEIC と先住民との関係は発展し前向きになっています。以前には、関係が悪いときもあったかもしれませんが、私は現在と将来を考えています。今日見たところでは、先住民との良好な労働協力関係があります。おそらく、皆が仕事をしたがっているわけではないでしょう。どんな社会でも、何かに不満を持つ人たちは必ずいるものです。あらゆる問題で合意を得る、ということは非常に困難です。きっとあなた自身もそのような経験を見たことがあるでしょう。我々が見てきたところでは、先住民発展計画が作成されるに従って、大まかな合意と、その受入れがありました。

SEIC とマスコミの関係に関しては、「新聞で読んだことをそのまま鵜呑みにしてはいけない」という古い諺を繰り返す価値があると思います。確かに、数週間前の島での最後の会議の後で出された報道文を見たときは、我々は平行線をたどっているようでした。我々は、我々が絶対に言わなかったことなどを、言ったと糾弾されました。何事もまともには受け取らないのです。

確かに抵抗はありましたが、覚えておかなければならないことは、島の先住民の生活を侵害する、あるいは侵害する可能性のあるものはサハリンⅡプロジェクトだけではない、ということです。島には他にも石油ガスの活動があります。ここであまり詳しいことには立ち入りませんが、私が記憶している、ある抵抗のきっかけになった出来事は、神聖な場所が冒とくされたことによる問題であり、サハリンエネルギー自身やその請負業者と直接関係して起こったものではありませんでした。もしあなたがそのことを言っているとすればですが。誰でも経験から学びます。先住民の生活の物理的な資産だけでなく、精神的、文化的な面、および島のその他の人々の生活にも注目しなければならない、ということは明らかです。我々は全て、この状況から多くを学びました。

お金に関しては、先住民に金をばら撒く、という単純な問題ではない、ということをあなたもよく理解されているでしょう。それは、それらの問題を扱う際の文化的に適切な方法ではありません。計画に割り当てられた金額は、基本的に先住民が識別したニーズとそれらの処理の必要性に起因しています。30万ドルが十分でない、と簡単に言えるような問題ではありません。必要なだけ十分に利用できるようになるでしょう。もしもっと必要であれば、もっと使えるようになるはずですが、今のところ、この金額が先住民によって識別されたニーズを満たすのに必要とされています。

司会者（通訳）：他に、このような社会問題や類似の質問はございますか。

参加者（通訳）：私はJBICの者です。先ほどの男性はJBICのコンサルテーションに関する質問を挙げられました。彼はJBICが人権問題に取り組んでいなかった、と述べられました。JBICはいくつかのコンサルテーション会議を組織してきました。私どもは主に国境をまたぐ問題に専念しています。その意味で、サハリン島の人権問題、特に先住民の問題には、特に集中しているというわけではありませんが、私どもの環境および社会影響ガイドラインでは、確かに人権問題について十分な注意を払っています。私どもはこれらの問題に対して、EBRDや他のレンダーとともに、妥当な注意を払います。私どもは、このプロジェクトの影響を受ける島の先住民の人権や社会状況に対して慎重に配慮します。私どもは先住民といっしょにコンサルテーションに参加します。

司会者（通訳）：類似の、または関連する質問はございますか。

参加者（通訳）：私は会社員です。氷で覆われた海での油流出について、それから情報の透明性について不安があります。ええ、もちろん、この会議では翻訳と通訳があります。使われた言葉は日本語で正しく伝達されていないかもしれません。

油流出についての心配は、氷で覆われた海での油流出対応計画は完成していない、ということです。

EBRD のベストプラクティスに言わせると、プロジェクトが進むにつれて新しいソリューションが発見されるだろう、ということです。

「ベストプラクティス」という言葉が正しく翻訳されていたかどうか分かりませんが、要するに私に言わせれば、「ベストプラクティス」は単なる言い訳で、金銭および技術的な意味でのベストプラクティスです。科学者やエンジニアはいろいろなことを試しています。例えば、ヨーロッパ沖の北海海域の資源プロジェクトは既に過去 30 年間続けられています。天然ガスがヨーロッパ中に供給されています。この 30 年の間、氷で覆われた海域で油が流出したらどんなことになるか、誰か環境上の不安を持った者がいたでしょうか。プロジェクトは 30 年続いているのです。もしヨーロッパでベストプラクティスがいつも試されていたとしたら、ヨーロッパの人は既に何らかの良い方法を持っているはずで、大手石油会社は膨大な投資に関与しています。彼らは有名な科学者を持っているはずで、私は、海が氷で覆われているときの油流出を有効管理する方法について、いつベストプラクティスが使え、あるいは使えるようになるのだろうか、と疑問に思います。これが一つ目の質問です。

2 番目の質問は情報についてです。1985 年、86 年のチェルノブイリ事故の後、ロシア中央政府と地元政府はしばらくの間、放射能汚染事故のことを隠蔽しました。これは、ここに出席されている何人かのロシアの方の前では言いにくいことですが、管理当局の中にはいつでも事実を隠蔽しようとするところがあります。EBRD の立場はどうなんですか。もし関連当局が事実の隠蔽を図ったとしたら、EBRD はどうするんですか。

キング：我々はエネルギーの少ない世界に住んでいます。我々には非常に高いエネルギー需要があります。我々は石油、ガスの新しい資源を探さなければならず、これらの多くは未開拓領域、気候的に、さもないと非常に挑戦的な環境の中に我々を連れて行きます。サハリンの場合がそうです。

氷中の油流出は挑戦的な面はありますが、対処できない種類のものではありません。いくつも現実的な手段や方法が利用できます。今朝言及されていたように、サハリン II 鉱区から算出する油のよいところは、それが非常に燃えやすい、ということです。更にそれは揮発性が高く、蒸発により数時間で、少なくとも半分まで量が急速に減るでしょう。

実用的な手段は公開された情報においてある程度議論されます。それは、氷条件で油を扱う装置のオペレータや製造企業から学んだり協議したりしながら、会社が継続して取り組んでいる分野です。これは進行中の作業です。我々はこの分野における会社の対策の開発に満足しています。

考えるべき重要なことは、どんな会社も油を流したくない、対応策は非常に重要であるが、重要なことは油流出を最初の段階で予防すること、油漏れの可能性のリスクを極力低レベルに抑え最小化するための強固な対策がプロジェクトに組み込まれていることです。

あなたは、透明性の問題について述べられました。**SEIC** は、潜在的レンダーといっしょに働く際、非常に高いレベル、実際、多くの他の企業や国よりもずっと高いレベルまで公開性と透明性を高める方針を採用しました。島や石油ガスについて考えるとき、人々はすぐにサハリンⅡプロジェクトを考えそれに集中しますが、島にはかなり以前から他の活動があったことをほとんど忘れていています。レンダーはサハリンⅡプロジェクトに参与しているし、公開性と透明性に注意が向けられているし、そしてその上、このプロジェクトは非常に大きな国際的な監視を受けているため、島の他の活動のことは忘れられやすいです。

環境に関する行動の報告に関して、ある程度の公開性がプロジェクトに組み込まれています。デビット・グレアが今朝述べたとおり、この建設フェーズ中でも、河川横断などに関する実行報告が閲覧可能です。我々がプロジェクトで行動を起こすにつれて、進行中のモニタリングレポートのいくつか、および環境と社会問題の年間活動報告が確実に、精査のために一般公開される予定です。

EBRD の立場についてですが、もしロシア連邦が、思いもよらぬ状況において何らかの隠蔽を行った場合でも、既に **SEIC** とレンダーがそのような問題について公開性をもつという立場をとっているため、それが問題となることはありません。

参加者（通訳）：私は漁業団体の者です。今朝私たちは、油流出を予防するために **SEIC** によってどんな取り組みが行われているか、について質問をしましたが、もちろん、油流出の発生可能性を完全にゼロにすることはできません。我々は効果的な方策が採られること、またその種の取り組みについての情報公開も要請しております。

お気づきのとおり、日本とロシアの間には、緊密で開かれたコミュニケーションがありません。

環境問題に関する限り、および国内的には、我々には海上保安本部があり、そこからは、**SEIC** からの油が日本海領内に達したことは無い、という報告を受けています。しかし北海道管区に届いたニュースによると、油がロシア海域で発見されていたというレポートがあり、それが私たちを非常に驚かせました。これは、中央政府あるいは地方政府との間で円滑な情報交換がない、ということを示しています。我々は、**SEIC** がもっと迅速な伝達をするよう管理当局をプッシュするよう期待しています。

もちろん企業ですから、**SEIC** はロシア連邦管理当局の基準に従わなければならないでしょうし、**JBIC** やあなた方に対しても公正を期すでしょうが、レンダーとしてそれらの企業には、生産者の責任とともに政府によってなにが定められるかを先を見越して手段を準備したり、更に情報を交換したりする責任があるでしょう。また問題は、レンダー側がどの程度 **SEIC** に対して提案する準備があるかということです。強制でなくても、少なくとも **SEIC** に積極的な手段を取るよう要請する、というのも私たちはまさにそれを期待しているからです。

例えば海草やホタテ貝、その他の資源がアニワ湾からほんの数マイルのところにありますから、私たちにとっても、プロジェクトが進むにつれて、そのような対策が不可欠です。情報へのアクセスが必要不可欠

です。私たちは **SEIC** が **MDPC** 向けだけでなく、日本領海内のあらゆる緊急事態に対しても対策をとったり、対処する意欲を見せたりするよう期待しています。民間企業であるとしても、そのような手段をとるために、レンダーとしてあなた方がどの程度 **SEIC** に要請するつもりがあるかをお尋ねしたいです。金融機関としては、あなた方が監視にまわるだけでなく、影響力を行使するか、あるいは疑義を正す立場で行動していただけるよう期待しています。

キング：我々は、あなたが概略を述べられた分野において、**SEIC** とかかわりあっています。どんな石油会社も油流出を望んでいませんが、それは、宣伝の意味があるからではなく、石油を生産してそれを販売して利益を得る、それこそがまさに石油会社の仕事だからです。ですからどんな油流出でも石油会社にとって資金的被害をもたらします。

先に私が述べたとおり、会社にとっては予防が主要な問題であり、それはレンダーにとってもそうです。流出の可能性、流出のリスクを最小化するためにプロジェクトの開発部分に組み込まれた特別な対策がいくつもあります。

二番目の関心事は、先に述べたとおり、油流出対応です。文書でご覧になったと思いますが、流出の想定規模に応じた油流出に対する層的な対策があります。最初のレベル、第一層は、会社自身の準備に関わるものです。**SEIC** は、島の周りの戦略的場所では装置の予備を維持すること、その装置を操作する人々への能力訓練を続けること、および流出に際しては緊急に動員可能とすることを約束しています。

第二層レベルの対策は、予備的な準備です。今朝、石油企業間の覚書について発表がありました。

この中では管理当局が役割を演じます。源がなんであれ万一流出があった場合、緊急事態省が来て、流出に関わる各会社の全ての油流出資源を徴発できます。

第三層レベルの対策は、**EARL** や **OSRL** のような運営企業との契約調整です。シンガポールとイギリスには、専任の専門家からなる油流出対応部隊がいて、流出対策を支援するために有用な物資とともに飛行機でかけつけます。

これらの多層の取り組み、必要な覚書や様々な団体との契約調整、装置と訓練された要員の調達に従事することを **SEIC** は約束しています。これは潜在的レンダーである我々にとっても懸念事項の一つであり、油流出対応計画の中でかなり詳細に記述されるべきものです。既に申し上げたとおり、私たちはそれらの計画をコンサルタントの意見を聞きながらレビューしていますので、その計画は最高のレベルを維持できるでしょう。

あなたは地域的な協力について述べられました。会社は日本の海上保安庁と数回にわたり演習を行っていて、合衆国の海上警備隊もここ数年関わっていると思います。野外演習を定期的に行う、および局地的な流出対処の際に日本の管理当局ともっと協力する、ということは進行中の協約です。

参加者（通訳）：午前の SEIC との会議でグレア氏は、ここ日本で審議会を発足するよう提案されました。詳細に関しては、漁業組合と更に行政、私たち自身も関与させていただきたい、そして SEIC 側から通常、コメントもあるような、我々が期待するような会議。進行に関しては、レンダーもまた待機していわゆる適切なコメントを伝授していただきたい。

請負業者に関してですが、シンガポールの業者があります。サハリン1においてそのことを聞きましたが、ハバロフスクの管理当局で、シンガポールから駆けつけるのでは遅すぎるだろう、という話を聞きました。これは、メディア、テレビ報道で聞いたことです。請負業者が会社とともに配備されていて、いざというときにもっと迅速に駆けつけるようであればいいと思います。もちろん、日本の行政当局も必要に応じて対策を講じますが、それは日本の行政当局の善意だけに委ねられるべきではありません。SEIC 側もこの目的にかなうよう、必要な物資人員をそろえるよう期待しています。レンダーがもし融資の拡大を決めた場合、この問題を理事会のメンバーに挙げてそのような対策が必要だ、と伝えていただきたいです。

サハリンの内政に関しては、手続きが国際的基準を満たしていると述べられていました。パイプライン建設に関する限りですが、私たちは NGO 側から情報を入手しました。北海道の私たちは、実施されている手順は我々が日本の基準として通常期待するものより 30 年遅れていると確信しています。

私たちはここ日本でもサケの問題を抱えていて、そのため河川や水路の汚染に対して非常に敏感です。それゆえ、北海道で実施されるどんな建設や工事でも、私たちは確認できます。それに比べ、サハリンの建設で採用されている方法は非常に時代遅れですから、私たちは環境影響に対してもっと注意を払うよう提案します。私たちは SEIC や JBIC、EBRD と話し合う準備があります。JBIC や EBRD もこれを念頭においていただきたいです。

キング：わたしは第3層対応に関連してちょっと明確にしておきたいことがあります。第3層流出に関連して、人々がシンガポールから来て油流出に対応するのを待たなければならない、それでは遅すぎるだろう、という仮定について補足します。サハリンエナジーや関連会社は、油流出の発生後直ちに対応を開始する、ということ認識していただくことが重要です。シンガポールが動員されるまでの間、会社は必要に応じて、流出を処置するための様々な対策をとります。人々が周囲に座り込んでシンガポールから機甲部隊が来るのをただ待っている、というのではなく、人々は直ちに対応を開始します。

油流出対応能力に関して、会社は人員を増やし油流出対応設備と一般的な対応能力を備蓄してきた、ということ私を述べました。島には連邦の沿岸警備隊（Sakbasu）もいて、それは油流出対応能力ももっています。また他の石油会社にも対応能力があります。いったん流出が起これば、これら全てが動員されます。外部からの対応、例えばシンガポールですが、それが必要かどうか、いつ必要か、ということを検討し始めなければなりません。

次に、河川横断問題についてジェフに意見を聞きます。

ジーター：私は、このプロジェクトが構築されているところの標準規範について2、3述べたいと思いますが、その前に、今朝そして今日の午後と、何度も言及されてきた一つのこと、それはこの漁業者の委員会と、および **SEIC** がこの委員会ともつであろう対話にも関係することですが、それについて述べたいと思います。これは **EBRD** が誠心誠意支援することです。我々は過去に、北海道の漁業者との対話について会社と様々な議論を重ねてきました。**SEIC** は常に、それに迅速に対応して来ましたから、将来も迅速に対応すると確信していますし、我々はこの種の対話を支援するつもりです。我々はこのプロセスにも同様に可能な限り関与したいと考えています。

島における建設の標準規範に関して、国際基準とは何か、**SEIC** が国際基準に従っているかどうか、という質問が寄せられました。多くのメディアの注目がこの島に寄せられ、確かにいくつかの劇的な写真がメディアで発表され、様々な **NGO** ネットワークを通じて送られました。これらいくつかの写真が外部に出され、大衆に見られている中で、どうやって我々は今この場で、プロジェクトが国際水準で築かれているとすることができるのでしょうか。

まず、そこで起こっていることは秘密ではありません。パイプラインの建設は大変な仕事です。ブルドーザー、掘削機が必要です。土地を切り開きます。山の中の急な坂を取り除く際はでこぼこの場所を平らにします。多くの土を動かします。この工事の中には厄介な仕事もあります。

レンダーグループとして我々は、パイプライン建設のみならず、**L&G** や **OPF** およびその他の施設など、このプロジェクトの建設、敷設用地での工事を視察しました。そして国際的な報道機関によって写真やビデオに撮影された場所のいくつかでそれらの問題を見てきました。これは **SEIC** にとってはニュースではありません。**SEIC** は一連の敷設用地の視察にもかかわってきました。

この問題に対して私が言いたいことは、第一に、建設は厄介な仕事だ、ということです。第二に、一年か二年前、敷設用地において建設があり、そこでは **EBRD** から見てとても許容できないような建設実例がいくつかありました。我々はこの問題を **SEIC** に持ち込み、これについて協議しました。過去2年にわたって我々は非常に積極的な対話を持ちましたが、とはいえ、我々が彼らに何か新しい注意をもたらしたというわけではなく、**SEIC** がいつも我々とともに協議する問題に対し、河川横断の問題か土壌浸食保護の問題にかかわらず、常に迅速に対応してきたと感じています。

現在、我々は、プロジェクトは国際的なベストプラクティスで実施されているとすることができます。これで完全でしょうか。いいえ、完全ではありません。まだ改良の余地があります。しかし我々は敷設用地で何が行われているかをかなり積極的に観察し、この情報をリアルタイムで **SEIC** と銀行の経営陣に報告します。そこで何が行われているか、と聞かれれば、現在は国際的なベストプラクティスが行われている、と言いますし、敷設用地で行われていることが国際的なベストプラクティスを確実に徹底して継続する

よう、我々はこれらの実行の観察を続けるでしょう。継続的な改良があり、最後に建設活動は、SEICが健康安全環境社会行動計画の中で我々に行った協約どおりに完了するであろう、と感じています。

その関連で、この文書に記されている国際的な基準についても心配する人がいれば、それこそはこの会議を開いている理由の一つです。もしこの文書に書かれていない国際的ベストプラクティスのアイデアがあれば、一般の人々からフィードバックを得るために情報交換します。我々はこの文書で、国際的なベストプラクティスおよびパイプラインの建設向けに現在世の中にあるベストプラクティスの見本を作るよう最善を尽くしてきました。我々は問題を見逃しているかもしれませんから、この文書や文書中の協約に対する建設的な意見を歓迎します。

司会者：油流出対応に関して、他に意見はございませんか。

参加者（通訳）：私は、生物多様性保護分野のNGOの代表です。最近、北海道のオホーツク海側の海岸で死んだ複数の野鳥が見つかり、ご存知のとおり、私たちのグループがその収集と死体の処理に当たりました。これに関して、意見を述べるとともに質問をしたいと思います。

午前の会議でサハリンエナジーはプレゼンテーションを行い、油流出事故に関してはロシア連邦の管理当局、地元行政当局とともに十分な協力関係が作られ、日本の管理当局とも同様のことが進められている、と述べられました。けれども、私たちが日本のプロジェクト領域で観察した限りでは、少なくとも、十分な調整システムが確立されているとは思えません。日本では多くの関連機関があり、それら間の協調も十分に行われていない、という事実もその理由の一つです。

サハリンではなく国後島で、数千羽の野鳥が、体が油に覆われて死にましたが、その原因はまだ特定されていません。最近になってようやく、これらの鳥は油に覆われているが、何らかの黒い液体が野鳥の体内から流れていたという理由から、野鳥は油汚染の前に感染によって死んだのだ、とロシアの当局が発表しました。それがロシア連邦当局からの最初の発表でした。これは、自然保護に関して、ロシア政府の認識または知識レベルが非常に低い、ということの証拠です。サハリン地元当局は、対応が非常に遅い、そして合法的で方針が懸命である、と述べました。日本の当局は、対応はこれから改善される、と言いました。

。万一油流出が起こった場合、両国の管理当局は協調して働かなければなりません、協力体制はまだ確立していません。この時点でこのプロジェクトに資金を提供するのは、賢明なことではありません。

司会者：関連する質問はありますか。

参加者：私は一定の専門知識を持っていますので、次の意見を言いたいと思います。OSRP（油流出対応計画）が更新されているようですので、それを継続的に監視する必要があると思います。

北海の冬凍らない地域や、バレンツ海、更にフィンランド近海において、氷条件に対する特定の対策の検討が行われています。それに関するレポートが発表され、ベストプラクティスが含まれています。石油開発が続けられているボーフォート海では、プロジェクト側は同様のベストプラクティスを閲覧できる形で公開しています。

サハリンエナジーは、油流出の際、エクソンと共同活動のための契約を締結するだろう、と言っています。エクソンは昨年、ある油流出を体験しました。サハリンエナジーがそのような事故に際してどのように行動するのか疑問に思われます。

キング：最初の件はモデリングに関係していると思われます。会社は、現場から得られたデータを追加しながら、油流出モデルを継続的に洗練させてきています。そしてそれは計画と対策にも活かされています。ですから、ものごとは先に進むにつれて改善されています。

サハリンエナジーがエクソンの流出に対してどのように対応したか、に関する質問は、もし誰かそれについて今話しをしたいならば、サハリンエナジーに聞くのが一番です。あるいは別途お問合せください。私はそれについての詳細を承知していません。

デビット・グレア（SEIC）：私はエクソンの流出に関する質問にお答えできます。我々はエクソンとの間に相互援助協定があります。更に、島の全ての石油業者との間に相互支援のための覚書があります。更に、地域の対応能力の発展を支援するために州知事との覚書もあります。また第三者による油流出対応方針があり、それによりどんな第三者の流出に対しても対応します。

エクソンの流出の際、彼らはエルビス(流出対応船)の使用を要請し、我々はそのようにしました。エルビスは彼らの設備の南に進みましたが、実際には必要とされませんでした。

参加者：これについてもっと詳細を知りたいなら、個人的に SEIC のメンバーと話してください。

油流出対応に関連して、シンガポールの業者がいる、と言うお話でした。どうしてシンガポールですか。シンガポールが担当できる対策というのはどのような範囲のものですか。もし可能であれば、それはサハリンまたは北海道に本部を置いて拠点とすべきです。パイプライン建設は厄介な問題だ、と話されましたが、建設を進めていく上で科学的専門家や NGO の専門家を活用するべきでしょうし、先住民族、地元などと連結すべきでしょう。

あなたは、パイプライン建設は厄介な仕事だと述べられましたが、建設を進めるにあたり、あなた方は科学的専門家と NGO の活用、更に先住民族や地元との連携する必要があるでしょう。

沖合いパイプライン：サハリンのパイプラインの埋設において、その耐久期間はどれぐらいですか。それらは何年、侵食に耐えますか。海洋パイプラインの耐久年数はどうですか。それは、耐久期間が切れる前にそのようなパイプを取り替えるために重要です。

あなたは環境の専門家についておっしゃいました。マレーシアにおける油流出の原因となったマーシャル島所有の船があり、それが鳥類に対する被害を引き起こしていました。

私たちがロシアやどこかの管理当局に情報を要求しても、かれらはなかなか対応してくれません。

キング：シンガポールに拠点を置く会社は 油流出対応を専門とする世界の二大企業の一つで、装備、スタッフ、大規模の油流出対応等の点で特筆すべき資源を提供することができます。彼らは油流出の管理をしません。サハリンで流出があった場合、油流出を処理するために、緊急事態省が州とともに指揮系統を設定します。彼らは、例えばサハリンエナジーの助力を仰いで油流出の管理を要請したり、誰か他のところ、おそらく彼らが保管する **Sakbasu** の資源を利用するかもしれません。なされるべきは、効果的な指揮系統が適所に配備されることです。どこかに命令センターが設立されます。例えば、私たちがみたところ、サハリンエナジー内に一つあります。流出は、島から処理され、島上あるいは島外部からの物資は、この地元の指揮系統を通じて調整されます。

司会者：コーヒーブレイクの前に、あと2つの質問を受け付けます。

参加者（通訳）：私は漁業組合の者です。今朝の会議でタンカー事故に関して、どんな対策がとられるか、あなたははっきりさせませんでした。漁業に携わる我々のような者は、日常生活の中でまだ港の問題を心配しています。**SEIC** の原油は売られるかもしれません。原油を購入する会社、あるいはオホーツク海上のタンカー自身が事故を起こした場合、サハリンエナジーは、その権利は既に放棄した、言い換えれば原油は第三者に売ったのだから、といて責任逃れをするのではありませんか。私はこの点に関しての回答をいただき、そして、この特別な問題に対するレンダーの考えを知りたいです。

ジェフ・ジーター：それについてはマークに答えてもらいますが、その前に一点だけ述べますと、先の質問から「もしかすると」が抜けていましたが、それはパイプラインの寿命およびパイプラインの腐食速度がパイプライン漏れを引き起こす前にパイプラインを交換することの重要性に関連しています。それはまさに的を得た問題です。パイプラインの寿命はその設計では **40** 年ぐらいのオーダーですが、重要なことは、「インテリгент・ピギング」と呼ばれる方法を使って、パイプラインの様々な腐食率を測定するためのモニタリングが続けられている、ということです。これは、パイプラインの様々な地点に壁の厚さを測定するための器具を入れて行われます。このモニタリングの結果は、より腐食率が低いところでも利用でき、そのようなリスクの高い場所を監視し、最終的に、交換が必要な部分を識別するための手段として、反復的なリスクアセスメントにかけられます。これは認識されている問題で、この問題の監視に対して **SEIC** は、世界のベストプラクティスに従って対策をとっています。

マーク・キング：タンカー事故の予防に関して、ここにはいくつかの有効な手段があります。まず、航行管理、ラ・ベルセ海峡を通過し2国間の国際航路を移動する船舶の航行管理を強化します。次に、二重船体構造を使うという取り決めがあり、更に会社は基本的に、適切な保守が行われているか、すべての許可を得ているか、状態はよいか、正しい言語運用能力を持った者が乗船しているか、など状況に応じて検査をします。

責任の放棄に関しては、会社は海でのいかなる第三者の問題、流出に対しても対応する、と既に述べています。そういう約束があります。それを援護するための会社の財源もあるし、会社の責任範囲に含まれるような流出が万一あった場合に備えて保険も準備されているし、その流出に関する対策を行うための適切な財源もあります。

参加者（通訳）：サハリンの緊急油流出対応計画および越境通知システムは2004年までさかのぼります。プロジェクトはサハリンで実施されています。地元管理当局、日本のものも含めてですが、その協力においてどのような種類のコミュニケーションあるいは通知システム、協力および安全対策がとられていますか。

問題解決方法を見つけ出すためにコンサルタントが雇用されるでしょう。この取り組みに関してどのような進展があったか、お尋ねしたいです。皆さんの発言を聞いていますと、懸案の中心は対策手段、特にオホーツク海で事故があった場合のものであることは明らかです。そして日本とロシアの管理当局間の協力に関する心配もあります。

EBRDはサハリンプロジェクトが必要であると理解し、融資を拡大するつもりであるかのようです。この取り組みに問題がある限り、私は何が生じているかについて問いかけを続けたいです。

EBRDは、サハリン島で万一緊急事態が発生した場合に取られる手段、更に越境通知やコミュニケーションを懇請、あるいは要求しています。

参加者：（マイクなし）

マーク・キング：かつてEBRDは、サハリン海域と隣接する海域をカバーする局地的油流出対応計画の開発につながる技術協力プロジェクトの資金提供を検討していました。我々はそのようなプロジェクトを開始し、プロジェクトに関して働くコンサルタントを雇用しました。しかし同じときにサハリンの行政当局は、自分たちのリソースを利用した独自の地域対応計画の作成の継続を決めました。そこで、既にあるプロジェクトの重複になるものに融資するよりも、そのプロジェクトから手を引きました。それは進められていますが、選ばれたコンサルタントと、そして更に島の石油会社とともにサハリン当局によって実施されています。

参加者：EBRDの代わりに、今ではサハリン当局がこれを指揮していて、あなた方が当初、この種のプロジェクトに対する資本注入を決めた際のプログラムは、いわばサハリン当局に委任されているのですね。EBRDがどのように関与しているかを見ると、まるでいくつかの手段が抹消されて実行されていないかのように見えます。一つの例はクレーン（cranes ?）だけでなく、プロジェクトが進むにつれて、EBRDの天然資源方針です。特に、多くのプロジェクトが進行中であるならば、最も効果的な環境計画を考え出すことが重要ですが、それは環境影響アセスメントと直結していなければなりません。それはレポートの中で言葉で表現されていますが、まだ具体化されていません。

緊急時対策と越境通知コミュニケーションのプロジェクトも具体化に失敗しています。このような状況ですから、EBRDの基準は、最初に重要であると識別されはしたけれども、具体化に失敗しています。

私は環境アセスメントの価値が尊重されているかどうか疑問を持ちます。

参加者：あなたは現在、サハリン当局が問題を十分処理できる、とおっしゃいますか。あなた方はかつて、もっと高いレベルの要件をもっていたけれども、プロジェクトが進むにつれてトーンダウンしているように見えます。彼女は、それが多くの場面で発生するであろうことを心配しています。

キング：初めに、我々が要求している水準とアプローチについての我々の立場は、他の潜在レンダーと同様、油流出対応計画に関しては過去3年間、どんな方法でも縮小してこなかった、ということを確認させてください。我々はまさに最初から要求を発表してきました。SEICは、そのような要求を最初から理解し、それらの要求に応えるために最初からずっと働いてきました。

過去3年間、我々はSEICの油流出対応計画の作成を見守ってきました。我々は、それらの要件に合わせるためにSEICがスタッフを雇用したのを見てきましたし、我々の予測から何事も縮小していません。サハリン当局が独自の地域油流出対応計画を決めた、ということは、良いことです。彼らは、EBRDがすることに依存するよりも、自分たちの問題の管理に実際に責任を負っています。率直に言えば、彼らがこれを行うのは良いことなんです。

注目すべき主要な点は、どんな地域計画が策定され誰が資金提供するにせよ、油流出対応は予防から始まり、油流出を可能な限り予防するための対策が配備されている、ということです。次の問題は、ここで私が何度か回答したとおり、油流出の処理ですが、会社は、他の会社の中でベストプラクティスと見られるレベルの、油流出を処理するための強固な戦略を準備していますし、それこそは皆さんが期待していることでしょう。「ベストプラクティス」が意味することには明瞭さが欠けています。基本的に、ここの対応の種類は、世界中のどんな石油ガス会社からでも皆さんが見たいと期待しているようなものです。標準は公開文書の中で述べられています。皆さんは、会社が保有しているガイドライン標準を見ることができますし、それらは3年間適切な場所に配備されています。

司会者（通訳）：コーヒーブレイクの前に、もう一つ質問をどうぞ。

参加者（通訳）：EBRD のスケジュールに従えば 2006 年に石油生産が行われるはずですね。それは、2005 年の終わりに油流出対応計画に対するロシア当局の許可が下りなければならない、と言うことを意味しています。すでにお聞きの通り、多くの懸案がありますが、あなた方は全ての不安を解消する前に資金提供を開始するかもしれませんね。それが私がお聞きしたい最初の質問です。

二点目は、ただ目的を明確にしたいんですが、もう一度、その地域のための油流出対応計画についてです。会社によると、過去 6 年の間に 500 リットルの油しか漏れなかった、ということですが地元国会議員が EBRD 向けに発行したレターでは、2004 年に 28.3 トンの油が地元領域に放出されたが、会社はそれを調査しなかった、ということです。これは資金提供者であるあなた方の準備に対して追加された、私たちのもう一つの不安材料です。この報告が正確であったかどうか、確認していただけませんか。

キング：最初の件について扱わせてください。我々は、会社が、我々の基準およびロシア連邦の基準に合う油流出対応計画を作成する、作成している、ということで会社と合意しています。これは進行中のプロセスです。各設備資産に対する計画作成の期限はロシア連邦側から指示されています。これらの油流出対応計画は最初の石油生産の前によく準備されていなければなりません。その時間枠は現在、計画通り進捗しています。我々は彼らが完了するのに伴い、詳細化された油対応計画を見始めたところです。

これは油流出対応問題が処理される前に融資を決定することは EBRD の問題ではありません。油流出を処理するための適切なプログラムがあります。これらの計画は一定時間をかけて、我々のレビューにかけられます。これらの計画は我々の要求を満たしています。これは全てのメンバーの理解を得ています。我々は、我々が満足し我々の環境上の方針にかなう適切な手続きをもっています。

28.3 トンの流出の疑いについて、私は記憶にないんですが、休憩時間中に JBIC かサハリンエナジーのメンバーに確認させてください。

司会者（通訳）：4 時 40 分まで、15 分の休憩をとります。

（休憩）

参加者(通訳)：最初の件は、**28.3**トンの油漏れがあった、という疑いについてです。

キング：我々は、その量は昨年の浚渫船の座礁に関連するものだと考えています。我々はそのレターの著者が何を引き合いに出しているのかを見るため、彼に説明を求めています。今のところ、その問題に関する返答がありません。我々が確信していることはそういうことです。

司会者(通訳)：次の質問はいかがですか。

参加者(通訳)：休憩の前にあった問題にもう一度戻りたいんですが、油流出対応に関する質問が2つありました。サハリンエナジー社によると、**MDPC**と共同エネルギー演習の実施を準備している、ということでした。今年の5月、日本の海上保安庁とロシア側は連帯契約を持ちましたが、サハリンエナジーと**MDPC**の間の、なんらかの計画や過去の共同演習の記録についてまだ聞いたことがありません。それについて何か情報をお持ちですか。

二番目に、タンカーに関する不安があります。輸送には巨大タンカーが利用されるでしょう。確か先週、一艘の船が苫小牧の海岸に座礁しましたし、**50,000**トンの**NIMRO**のエンジンが故障し鎮火後によりやく函館に曳航されました。そして**200,000**トンのタンカーが利用されるのです。もし事故が発生し、特に冬、そのような巨大な船の操縦ができなくなれば、そのような巨大な船をエンジンが動かないまま関連する場所まで引っ張っていくことができるでしょうか。シンガポールの業者がそれを処理できるのか、政府機関はそのようなケースを処理できるのか、疑問があります。もちろん、石油会社は国際的な石油流出基金に加入していて、ある程度の補償が使えるでしょうが、これら既存のメカニズムに加えて、サハリンエナジーがもっと事故発生の際の準備、特に氷った海の状態での対策を持つべきだ、と思います。何かもっと適切な準備や計画がありますか。これについて、**EBRD**は何か情報や意見をお持ちですか。**EBRD**またはサハリンエナジーのどなたか、これらの質問に答えていただけませんか。

キング：共同演習の件に関して。過去に実施されるべきだ、とあなたが言われた演習については、全ての関係者が満足していると信じております。もしそれらの演習についてもっと詳しいレビューや説明が必要でしたら、おそらく、サハリンエナジー内の油流出対応計画の責任者であるジョン・ウォードロップが対応できるでしょう。彼はこれらの手段についてもっと詳しい説明を提供できます。それらの演習の報告書がありますが、急なことであり、また今ちょっと時差ぼけもあって、その詳細を思い出せません。後ほどジョンがお役に立てることと確信しております。

冬季の公海上および湾内でのタンカー移動に関して、あなたが話された事故については知りませんのでコメントができません。私から言えることは、またジョンですが、彼は会社が、湾内で通年利用できる氷対

応タグをもっている、ということ詳しく説明するでしょう。災害にあった船があったなら、それらが動員されるでしょう。予防が何よりも大事です。会社は、氷のふるまいや動き方、リスク、そしてまた、気象条件と氷条件のもとでいかに監視するか、を十分理解するために、島周辺の氷条件の研究を可能な限り行っているし、これまでも長年行ってきていて、必要に応じてその情報をタンカー運行に提供している、ということをはっきり理解することが重要です。

デビット・グレア（サハリンエナジー）：あなたは氷対応供給船について話されました。実は我々はこれらのタグボートを3艘建設すると約束しました。先週、最初の一艘、パシフィック・エンデバーをノルウェイで進水させました。私と副知事が出席した共同命名式典がありました。これらはワールドクラスであり、そのような事態は極めて起こりにくいと私が考えていることを強調しておきたいんですが、万一そのような事故が発生した場合に、あらゆる漂流船舶を扱う上で充分以上の馬力をもつ破氷供給船です。これらの設備は既に、進行中の運用の中で非常に良く利用されています。

この会議に出席されている皆さんにご安心いただく良い機会だと思いますが、2005年9月9日に発生した「クリストファー・コロombo」事故の処置において、既存のインフラと組織が非常にすばらしい効果をあげました。それにもかかわらず、そしてフェーズ2向けの我々の油流出対応計画がまだ作成中で2006年中に承認を得るつもりでもあり、島のロシア管理当局の能力を過小評価しないでください。ホルムスク市海域で20トンの重油と50トンのディーゼルの不幸な流出をひきおこしたサハリンエナジー向けの契約船「クリストファー・コロombo」の事故は、この種の予期せぬ事故を扱うための、業界および州の能力と容量のすぐれた事例としての役目を果たしています。ホルムスク市で、コロomboおよびコロomboからの流出が非常に効果的に極めて高い水準で除去されただけでなく、破損した船自身も完全にサハリンの海岸船から除去されましたが、このような船の回収はサハリン島周辺では史上初のことでした。更に、それはロシアのリソースによって全て完了した回収作成でした。

ロシア当局の能力や容量を過小評価しないでください。サハリンが、海岸線を保護し維持したい、という彼ら自身の希望を過小評価しないでください。彼らは、人々が言うように、30年も遅れてはいません。非常に誇り高い国であり、島の資源は非常に誇れるものであり、我々が話しているようなタイプの予期せぬ事故を扱うために非常に有用なリソースを利用できます。

もしよろしければ私の同僚のウォードロップを呼んで一言だけ、ジョン、共同演習に関して補足を。

司会者：マーク、ここで意見を言わせたいですか。そうしますか。

ジョン・ウォードロップ（SEIC）：サハリンでは2年ごとに大規模な演習が行われます。それらは通常運輸省によって主催されます。これまで2、3の機会には、日本の海上保安庁と連携し、1回は確か、日本の海上保安船も参加しました。

次の演習は今年5月にあります。場所はアニワ湾の予定です。それも運輸省の演習です。それは省庁の甚大な緊急事態を想定して行われるでしょう。かなりの日本海上保安庁の派遣部隊も参加するだろうと確信しています。

サハリンエナジーはこれら全ての会議に参加してきました。我々はその一部であることを嬉しく思います。我々はこれらの過去の共同演習の全てに参加してきました。どんなシナリオなのか実は良く分かりません。おそらく演習の1週間前にそれを知るでしょうが、我々の資機材、少なくともエルビス(流出対応船)が関与するでしょう。

司会者(通訳)：次の話題に移ってもよろしいですか。

参加者(通訳)：油流出対応に関してはもちろん、考慮していただきたい問題がいくつもあるんですが、今は油対応一点に集中したいと思います。私はチャイボを訪問しましたので、その訪問について覚えていることをお話ししようと思います。広範囲の影響が懸念されていることから、彼らはチャイボ湾を横断するように航路を変更した、と聞きました。私はこれについて心配しています。アウトラインだけでなく具体的な中身について。言い換えれば、渦(大陸棚)内のどこで流出があり、どんな対策が考えられているのでしょうか。

最低でも、状況によって軟らかい土壌が浮き上がる潮流の動きがあり、荷船や船舶の進行が非常に難しいことがわかっています。もちろん、公式のオチ(Ochi)が上流に向いていて、これが汚濁を引き起こしている、ということも分かっています。もし油漏れがあれば、この種の地形を貫通しますが、実際どうやったら迅速に回収できるんですか。私たちはそのような状況を北海道地域で見ました。鳥が油膜によって被害を受けたとき、私たちは、彼らが即死したことを知りました。そしてもちろんオオワシがこれらの鳥を食べます。これらの地域はオオワシの生息地です。オオワシがこれらの死んだ鳥を食べると、彼らも死にます。言い換えれば、迅速な対策がとられなければならない、そうでなければ二次災害、三次災害を引き起こします。

質問に戻ります。油流出が渦に侵入した場合、どのような対策をとられる予定ですか。

キング：チャイボ横断が既にこの冬実施され、もちろん鳥がいないところで行われた、ということにご注目ください。

対策に関して、プロジェクトの第1フェーズにも、我々が受入れ可能と判断し、何度か監査をした油流出対応計画がありました。実際、ロシア管理当局はそれを他の石油会社に良いサンプルとして見せたほどです。その計画には、詳細化された海岸のセンシティブティマップがあり、それは生物学的感度が最も高い渦のような海岸の地域を強調しています。万一その海域で流出が起こった場合、最優先事項は感度の高い

潟の地域に油が入り込むのを予防することであり、オイルブームの敷設など、油が湾内に入るのを防ぐための対策が取られます。

油のクリーンアップと現場へのアクセスに関しては、言われているとおり分散剤による油除去のための通常の物理的手段が使われるでしょうが、現在の考えでは、確かに、これらを感度の高い場所で使うのは最適な方法とは言えません。流動性は明らかに問題ですが、それは研究されてきていることです。会社は十分それに気づいています。湾に接近するための他の手段もあり、例えばヘリコプターを使う、などです。事実、油流出対応装備の中にコンテナが準備されていて、それには吸収剤などが入っていて、事故の際ヘリコプターに積み込みまれ、現場に迅速に散布されます。アクセスは必ずしも大きい問題ではありません。

参加者（通訳）：私は予定されている対策を受け入れることができませんでした。非常に大きな潟で潮流の変化があります。一日のうちに満潮も干潮もあります。もし仮にヘリコプターで到達でき、その場所に人間が足を踏み入れたとしても、腰や膝まで泥につき、動き回することは非常に困難でしょう。対策の中で、浸入を予防する手段をとる、とおっしゃいました。横断の最中に万一流出があったら — もちろん起こらないにこしたことはないんですが、もし起こった場合、通常の下況なら重機が必要になるでしょう。アクセスについて話されましたね。もちろんそのような重機をそのような地域に移送することは不可能ですし、仮に重機の輸送を試してみたとしても、それはすぐに泥の中に埋まってしまうでしょう。私は具体的な詳細についてお尋ねしたいんです。

キング：ここで非常に細かい点までご説明するのは適切であるとは思えません。私はフェーズ1の計画の中でそのような手段について読みましたが、今長々のご説明できるだけの詳細を持ち合わせていません。重機が必要かどうか確かではありません。基本的にそれは人が対応する物理的クリーンアップでしょう。明らかに安全性は大きな問題で考慮する必要があります。

その質問について一般化はしないつもりです。会議の後で対応させていただければ、この問題に関する更なる詳細をお渡しします。

参加者（通訳）：SEICあるいはEBRD、日本の運輸省、海洋機関、日本海上保安庁、地域当局が参加する共同演習に関する先の議論について確認させていただきたいんですが、私は次のように理解しています。予防と油流出のクリーンアップに関して、MDPCが主な責任主体であり、更にまたMDPCにSEICからの言及がなされている。共同演習を考える際、MDPCの名前は特定されていない。それは、彼らが関与していない、あるいは指揮していない、あるいはそうするつもりがない、ということを提示している。私は彼らが従事することが重要だと信じます。

タンカー問題を検討する際、3艘の氷タグボートがアニワ湾に配備されると理解しています。責任主体あるいはその範囲はどうですか。それはロシアの海域内だけですか。日本海で惨事が起こった場合、それは対策の範囲に含まれていますか。もし日本海で惨事が起こったら、日本の当局が全ての責任を負うべきだ、と想定されていますか。これはだいたい、タンカーに関するテクノロジーではなく河川横断に関するテクノロジーです。私はロシア側の能力を理解し高く評価しています。

司会者：共同演習について説明したいですか、それともジョンに回しますか。氷タグに関して、それらがサハリン周辺だけで使われるのか、それとも日本海も含むのか、という点があります。

キング：機関の問題についてはジョンに任せます。私はそれらの役割については不案内です。これはもしかすると、別途対応できるかもしれません。この会議で扱うべきものではありません。非常に詳しい、技術的なことです。

日本海域での対応について、SEICは必要に応じて第三者の流出にも対応するだろう、と言っています。私はSEICの言葉を繰り返したくありませんので、それについてはジョンに説明をお願いします。

デビット・グレア（サハリン・エナジー）：もしよろしければ、私がお答えします。会社は、国籍や業者にかかわらず、島周辺で発生するかもしれないあらゆる不測の事態に対応すると約束しています。責任ある企業市民として、サハリンの海岸線の保護のためにできるあらゆる支援をしなければならない、という協定のもと、我々はサハリン州に協力します。

緊急事態において会社に何ができて何ができないかをここで自覚することは非常に重要です。現在の悩みではありますが、外国船をロシア海域に運び込むことの難しさを理解することも重要です。会社が、どれほどのことができるか、そしてそれに関する約束には限界があります。プリゴロドノエ(?)での作業のために日本船を運ぶ込むことさえ非常に難しい、国境警備隊や様々な税関の要求を満たして外国船をロシア内に連れ込むことも非常に難しい、ということも見なければなりません。

油流出対応の場所において国境を越えた協力に完全に賛同していますが、そのような越境協力を推進する上で行政には、ここで果たすべき役割があります。環境上の影響が非常に大きいところで緊急事態が発生した場合、現在外国籍の設備の輸入の妨害となっている官僚主義による空騒ぎや妨害、妨害工作はあってはなりません。

その地域の国々は、あらゆる地域的災害を援助するために、国籍に関係なく、周辺機器や設備の自由かつ迅速なアクセスができるよう、もっともっと緊密に協力しなければなりません。会社は可能な限り資機材を提供する、とはっきり約束していますが、同時にここでは、将来起こるかもしれない惨事に対応するためその地域周辺の自由な通行を許可上で、行政が非常に重要な役割を果たしています。

司会者（通訳）：共同演習に関する説明については、後ほどジョンと直接お話しください。

参加者：これらの新しい懸念や主張が現れたことで EBRD の融資拡大契約の条項や条件を改訂、追加、修正する必要があるかどうかに関して、ロンドンとサハリン自身で行われた会議で提起された主張や問題点について概要をお願いできませんか。この掘り下げた長期にわたるアセスメントにどれぐらいの期間をとられるつもりですか。今、公開ヒアリングの終わりにになってみて、銀行がその参加を決定する前に必要とされるアセスメント期間の見積を間違えたかもしれない、とは思いませんか。

キング（通訳）：プロジェクト開発期間中、我々は、関係者の間で法的文書の条項の肉付けを始めました。これらは時間をかけて展開されました。3年前、融資契約の骨組みとアクションプランの骨組みからはじめました。時間をかけて、これはかなりの詳細化されました。

コンサルテーションプロセスのあらゆる点が協議されるべきであり、また、このプロセスの中で提起された問題も考慮しなければなりません。もし追加で検討しなければならない内容の問題があるならば、そうすべきですが、私の記憶している限りでは、今日までにコンサルテーション会議中に現れたことで協議期間の延長を必要とするようなことはなにもありませんでした。我々は、プロジェクトの問題領域を十分知っていて、それらにどう対処すべきかもわかっています。プロジェクトはコンサルテーションの目的にかなっていた、と宣言することは、プロジェクトが完全にあらゆる問題点で合格点が付いた、ということの意味しません。それは、我々が一定期間、環境および社会問題に対処するための適切な手続きをとったこと、およびそれらの手段が時間をかけて扱われたことを保証するための法的修正が十分行われた、ということに対し、我々が満足している、ということの意味します。

我々はこのプロセスに満足しています。このプロセスはまだ我々の想定範囲内です。いくつかの問題が協議中であり、また SEIC とともにまとめられています。私の考えでは、コンサルテーション期間の延長の必要はありません。コンサルテーション期間は形式的には終了しますが、それは市民社会の皆様や利害関係者の声をそれ以上聞かない、ということの意味しません。もし他のご意見があれば、もちろん我々はそれを聞きます。すべては計画にそって進められています。

参加者（通訳）：EIA についてご意見をいただければと思います。EIA が発表されたとき、関心事は、EIA が野生動物種に関して特別考慮すべきだ、ということでした。私はいくつかの間違い、および間違った事実解釈に気づきました。特に私は鳥類について多くの懸念をもっています。私は海洋哺乳類の専門家です。私は改訂版につき海洋哺乳類に関していくつか意見があります。

最初のレポートが発表されたとき、私は多くの間違いに気づきました。サハリンエネルギーは EIA は完全ではないし、完全にもなりえない、と言っていますが、EIA が不完全にもかかわらずゴーサインが出されま

した。これは驚くべきことでした。ですから私たちは追加を待っていました。私たちはそれをレビューしました。そこには特にピペットとアザラシがいます。私は情報の多くがまだ間違っていると確信しています。トドに関する保護対策はまだ途中です。プロジェクト現場内の上陸範囲はまだ含まれていません。エサ場と移動の範囲はこのレポートにはまったく含まれていませんし、それはアザラシについても同様です。アザラシの問題（サハリンと北海道の間を回遊するアザラシがいる）がレッドデータブックの希少種でないとしても、それらは北海道の人々、特に観光資源として重要です。アザラシとトドは会社によって十分調査されたとはいえ、決定的なのは情報には間違いがあり、例えばアザラシやアシカの上陸場に関することなどです。関連する地図を見つけましたが、しかしこれらの種の上陸場や浜辺の生息地は十分保護されていません。言われているように、生態学に基礎的なアプローチが必要とされています。

他の種についても同様の懸念があります。EIA 補遺が発行されましたが、私は EIA 補遺それ自身が疑わしいと思っています。それは信頼に値しません。緩和手段が必要です。緩和のためのルールが設定される、という記述がありましたが、それに対する具体策はどこにもありません。事実調査努力が不十分であるのに、あなた方はどのようにあなた方の緩和手段の有効性を評価なさるつもりですか。

司会者(通訳))))))))))): それは意見ですか、それとも質問ですか。

キング: 他の文書で見つけられたギャップに関して、特に詳しいご意見を伺うことができ、とても感謝しています。もちろんこれは、環境影響アセスメントであり、その目的は主な問題に焦点を絞ることで、学術的な文書ではないということと理解しています。影響アセスメントで検討すべき主要要素に焦点を絞っています。

環境影響アセスメントは進行中です。環境管理は進行中です。生物多様性に関する様々な進行中の研究があります。例えば、イトウ、オオワシ、コククジラに対して、環境上のベースラインを増やし補強するための進行中の調査活動があります。それは我々の将来の管理上の決定をするうえで役に立つでしょう。もし補強が必要だと感じられる分野があったら、それについて我々にご教示ください。

特にコククジラを扱うための多くの手段が健康・安全・社会活動計画にも含まれています。例えば、プロジェクトの建設フェーズ中の音響対策などがあります。また、海洋哺乳類資源の安全防護に関連する主要問題からなる様々な油流出対応の協定もあります。

これはアクションプランの原案です。それは継続的にレビューされ改訂されます。このコンサルテーション期間中に提起されたあらゆるご意見はそのアクションプランに反映され追加されます。もし海洋哺乳類の安全のために特に追加すべきもっと有効な緩和手段があるとお感じであれば、それらについて喜んで意見をお伺いしたいです。

最後に、生物多様性アクションプランの作成に関する約束があります。海洋哺乳類に付随する問題のいくつかは、その計画に組み込むことができるでしょう。要するに、ベースラインにはギャップがありますが、それらのギャップは埋めることができる、ということです。我々は、追加する必要がある点について、皆様の特別な意見をお待ちしております。

参加者（通訳）：もう一度発言させてください。今朝言ったとおり、私たちはEIA補遺を検証しました。これを更にもういちど精査していただけたらと思います。今朝私はオオワシについて意見を述べました。私はそれについてはくりかえししません。ただ、次の調査を検討するときに、私の意見を覚えていただければと思います。

最後にもう一つ、EIAとEIA補遺について意見があります。これら2つにはまだ疑問があります。これらのレポートで調べたことからはじめます。配布した資料の5ページ目を見ますと、2003EIAは、補遺の中で繰り返されていることをいくつか特定していますが、調査の場所によって、データの解釈は一貫していません。

毎回この種の会議に出席して発言していますが、サハリンエナジーの回答は違っています。最初の回答は管理上のエラーだ、というもので、2回目の回答は、その巣はパイプラインから500m以内のものだ、というものでした。しかし今回、サハリンエナジーから何の回答もありません。彼らはこれが重要であることを認識していますが、どうしてダブルスタンダードがあるのか、という私の質問に答えませんでした。これらの質問に正しい答えが得られない限り、私たちはそのレポートをどうしても信じることはできません。

最後の意見ですが、今朝のグレア氏によると、サハリンエナジーは鳥類学者の委員を準備したということで、私がそこに呼ばれましたが、私は参加しませんでした。彼は残念だ、と言いました。その対応は私にとってもとても残念です。その会議は3月31日に開かれましたが、その日は日本にとっては非常に忙しい時です。すべての組織にとっての事業年度末にあたるのです。透明性、独立性および公正さ、これら三つはこの会議でカバーされるべきことです。私たちがそのような会議に参加する準備ができた後で行うべきです。平等性に関しては、サハリンエナジーが参加者を選別できますが、皆が会議の平等性や参加について保証すべきです。

そのような会議で独立性が確保されなければ、自主的で独立した議論は不可能です。これら3つの原則は非常に基本的な原則です。私はサハリンエナジーにこれら3つの原則を支持するよう依頼しましたが、かれらはそれを確立しませんでした。これは、私がその会議に参加できなかったもう一つの理由でもあります。

不一致あるいはダブルスタンダードの利用に関する私の先の質問に答えていただけませんか。

キング：わたしは多くの不一致の詳細に立ち入るつもりはありません。この問題は協力強化の必要性を強調しています。私は、うまくできた協力の例である、コククジラに関する研究を実施してきたクジラ委員会や様々な研究グループの仕事に目を向けます。

いくつかのグループがコククジラの生態や数について調査してきました。彼らは国際的専門家の委員会と協力して働いています。これは科学者たちが協力的に働いてデータを平等に共有している優れた事例です。鳥の問題についてもこの事例に倣うべきでしょう。

ここにいる私たちのほとんどは、今朝、SEICがあなたに協力を再度依頼した、ということを知りました。私は、そのようないくつかの相違する問題について検討するために会社と協力し、巢のある現場のフィールドワークに参加し問題を明らかにするよう、EBRDおよび他のレンダーの代表としてあなたを説得したいです。これは漁業問題でもありました。クジラの問題でした。それは確かに、海洋哺乳類同様、オオワシの問題でもありました。それは私たちが保護したいと望んでいる島の野性動物資源である、ということを知り、建設的な方法で前進させてください。それがどうなるか確認するためにいっしょに仕事をさせてください。

参加者（通訳）：残念ながら、それは私の質問に対する答えになっていません。サハリンエナジーは彼らが既にその数を知っていて、それらの数が入手可能である、と提案しています。それは、彼らが私たちの協力を受け入れることができないからではなく、彼らはこの数字を2003年にさかのぼって知っていたと言っているが、その数をここで明確に示すのは危険だからです。

マーク：数の相違は先に報告されました。ここでの問題は、パイプライン経路がどこになるか、プロジェクトがどこで影響を及ぼすか、プロジェクトの場所に関連するオオワシの営巣や生息地はどこか、ということです。これは進行中の基礎の上で変わるかも知れません。いくつかの巣は放棄されたり捨て去られるかも知れません。今年のオオワシの数は違っているかも知れません。問題は、レンダーとして、会社として、あなたのような利害関係者として、頭数を明らかにし、どの生息地の場所がプロジェクトに関わるかを理解し、我々がどのように頭数に対して予防あるいは影響緩和するか、を明らかにするために、いかに前向きに、協力的に働くかということです。過去の数は歴史的に興味ある問題ですが、私にとって問題は、島の鳥の群れを前向きに保護することです。そのための唯一の方法は、私が今言ったとおり、協力的方法でいっしょに働くことです。

参加者（通訳）：私は北海道大学から来ました。研究テーマとして私は海洋哺乳類に焦点を当てています。私は斉藤先生に対する更なる意見として二点挙げたいとおもいます。補遺を改善するために、先生がおっしゃったフィードバックと専門家の協力が必要だと信じていますが、適切な事実なしに、およびそれらの事

実を理解することなしに、その影響を評価したり、それを改善あるいは緩和するかを知ることはできません。プロジェクトを実施する前に、確かな情報を準備すること重要だと思います。

午前の会議で言われていたように、プロジェクト進行に伴う情報収集はアセスメントとしては十分ではありません。

それらはアザラシに非常に多くのページを費やしますが、オットセイについては十分な記述がありません。特にアニワ湾にいるそれらの頭数は重要です。

上陸場の特定に関しては調査が行われています。けれども、研究結果の発表はなく、何が実施されるべきか、ありません。

油流出と関連してアシカの研究が行われていますが、南方海アライアンスによると、オットセイが汚染された場合でも、大規模な被害があるだろう、という結論でした。トドの場合もそのケースでしょうが、アザラシの場合は、対応調節のために毛が重要ですからそのようなケースではなく、もし油汚染があれば、同じことが鳥類に対しても起こるでしょう。

オットセイに対する適切な対策が取られるべきだと提案したいです。

キング：ご見解をありがとうございました。ご意見をもっと詳しく伺うことができれば非常にありがたいです。

参加者（通訳）：休憩時間中、私は EBRD の代表の方と昨年行われた会議についてお話する機会を得ましたが、ナイジェリアのロイヤル・ダッチ・シェルも石油開発を行っていて、20 年前にパイプラインを導入したということでした。そのパイプラインが破裂し先住民の自治領域を汚染したということでした。先住民は、陸地で穀物を栽培しませんから、生計を立て続けることができませんでした。またそのときは、それが軍事政権下で発生し、リーダーが拘束され処刑された、ということでした。ところが、西洋諸国のリーダーはこの点を指摘、あるいは質問しませんでした。経済制裁に関する話はありました。しかしそれらは十分実行されませんでした。合衆国でロイヤル・ダッチ・シェルは今でも非常にアクティブです。

先住民にとっての利益とはなんでしょうか。アフリカではまだ市民戦争があります。チェチェンで反対勢力を見たとき---

司会者：サハリンまたは日本に焦点をあてていただけませんか。

参加者：私は石油資源について話しているのです。先住民から石油資源を奪い、利益を先住民あるいは地元民に還元しない、ということは了承できません。これは先住民との可能な関係を抹消し、グローバルな社会の繁栄の流れを止めるものです。

司会者：どうもありがとうございました。

参加者：それは私たちの会議の議事録の中に明記されるでしょう。私たち、我々の側にとって、最善の可能な範囲は、渡りの種に注意を払っていただきたい、そしてもちろん、サハリン島の希少動物資源を保護していただきたいし、協力の幅を広げていただきたい、ということです。

オオワシの巣に関して、斉藤先生は調査を行っていて、その調査の間に不一致、あるいは国際的な事実の湾曲に気づかれました。一方、アザラシのような他の野生動物の検討の中で、アザラシに向けられた章を見ると、生息地に関する事実が抜けています。

開発が進むにつれて、いかに影響を緩和することができるか、が大きな問題になっていくわけですが、十分で的確な統計なしに、評価を行うのは非常に困難です。開発はまだ途中であり、それらの適切な基礎的統計なしに影響を緩和する手段について論述するのは、不可能、あるいはほとんど不可能だ、ということ北海道大学からの参加者として述べておきます。

参加者：会社は、それは不可能でありあまりにもおおくの資本を必要とする、と述べています。私はそれについてレンダー側から知りましたが、それには啞然とさせられました。あなた方が事件の予防について言われるときの、これはなんというか、伝統のようです。最近、予防について話すことは時代遅れです。というのも、それは事実問題であり、既定のことですから。

私たちは今、国際標準を固守しなければなりません。もしあなた方が国際標準を参照することにし、そしてサハリンプロジェクトが3あるはもしかしたら9に進むならば、ただし私たちがそれが何年も延長されるだろうことを知っていればですが、その場合、もちろん私たち自身石油なしにはやっていけません。しかし予防は既定問題であり、それゆえその点を強調する必要はありません。あなた方は、クリーンアップで何ができるか、に注意を向けなければなりませんし、私はあなた方のためにあなた方の権威者を活用していただきたいです。しかし、予防手段がとられるからといっても、それはクリーンアップが必要かどうか、ということの意味しません。それは 事件が既に眼に見える形になった、ということの意味します。それは、私たちが可能性や見込みについて話していることを意味しているかもしれませんが、この会社は非常に大きな資金源を背後に持っています。非常に繁栄している西洋諸国がこのプロジェクトに関わっています。ですから、クリーンアップについて話すことなしに、予防を強調しても意味がありません。

私たちは、それが起こりそうも無いから、と言ってプロジェクトを推進することはできません。EUには、環境問題を考える際の厳しい基準が随所にあります。あなた方の背後にあるその遺産と合わせて、あなた方がこの種の立場で述べられていることを見ると非常に混乱します。SEICの立場ははっきりしています。彼らは、できることとできないことがある、と言っています。予測できる問題もありますが、中には予測

の範囲を超えているものもあります。しかしレンダーからのそのような種類のコメントを見ると、本当に裏切られたという感じがします。ご清聴ありがとうございました。

参加者：整理させていただいてよろしいですか。あなた方は予防が重要だと強調されますが、先ほどの発言者は、それについて落胆しています。事故の発生の確率は非常に低いかもしれませんが、もし万一それが発生した場合に備えて、彼女はもっと具体的なクリーンアップや現場で行われる活動についての話題を聞きたがっているのです。当然行われるべき予防ばかり強調されるので、彼女はがっかりされたのです。しかしレンダーとしてあなた方は、事故発生という見込みの低い事態に対しても何ができるかについて、もっと集中するべきでしょう。

キング：前に言わなかったかもしれませんが、それは努力すべき主要なポイントです。予防は既定のこととして実施されますが、では油流出が起こった場合、それにどのように対処するべきでしょうか。それは主要な問題ですから、我々はその問題に非常に多くの注意を向け、業界で期待されるような最善の計画が確実に作られるようにしています。会社が作成している油流出対応計画について助言が得られるよう我々がコンサルタントを雇用しているのも、そのためです。

それについてもう一度討論させてください。会社のそれぞれの設備資産、LNG ターミナルやパイプラインなどに対して、それぞれに詳細な油流出対応計画があります。フェーズ毎の計画は会社の Web サイトにまとめられていて入手可能です。それを見れば、これらの計画の範囲と深さがお分かりになるでしょう。あらゆる機密情報を含む計画の完全版 - それはもちろん公開するわけにはいきませんが - は巨大です。これらの油流出対応計画には膨大な詳細があり、それらを精査するには非常に長い時間がかかります。しかし我々はそれを行わなければなりません。それぞれの資産設備に対する計画はロシア当局によって区切られた時間枠で作成され、ロシア当局は文書を検査し、我々は文書の妥当性を検査しています。先に申しましたとおり、計画が我々の基準にあっているかどうかを明確にしています。それは会社の関心でもあります。

我々が油流出対応に集中していない、という印象を持ったままお帰りにならないでください。我々は本当にそうですから。Web サイトで、公開文書として出されているフェーズ 1 の計画とフェーズ 2 計画の概要をご覧ください。そしてもし何かご意見やご質問がございましたら、電話か Email で協議させてください。JBIC を通してでもいいですし、我々のオフィスには日本人の同僚が何人かおられますので、もし日本語でのコミュニケーションをご希望の場合はご連絡ください。油流出対応が主要な問題ではない、という印象を持ったままお帰りにならないでください。それは我々にとって主要な問題です。

標準の問題に関して、あなたは EU について述べられました。利用できる EU 基準は、確実にこのプロジェクトの中に組み込まれています。それは特に、廃棄物管理と燃焼問題に関して明らかです。

参加者：もうひとつ事例を挙げてもう一点付け加えさせていただきます。今のお話が、予防と不測の事故が起きた場合の現実との違いを意図されていることは明らかです。この場合、私たちは良い例／悪い例があり、それはホルムスク港におけるクリストファ・コロomboです。おそらく間違いなく、事故の時点ではプロジェクトの責任ではなかったものです。それにもかかわらず、会社はこの事故に非常に率先して模範的な態度で対応に力を入れられました。私は個人的にその事故の現場を事故の数ヶ月後に訪れ、私はそれ以来ずっと状況を見てきました。会社はこの不幸な事故においてとても素晴らしい働きをしていて、今日この現場を訪れても、この不幸な事故の影響を見ることは、視覚的にも分析手法を用いても、もう二度とできないだろう、と言えます。つまりここには現実の、そしてクリーンアップにおいてどのように働か、の良い／悪い事例があります。会社はこの状況を最高の国際的水準できれいにしました。

参加者：マークさんに2点質問があります。マークさん、私は、コンサルティングプロセスに関するいくつかのマスコミ報道についてあなたが今日の午後の初めに言ったことに変な興味を持ちました。あなたは、あなたがその同じ会議に出席していたかどうか定かでない、ということでした。私は、ユジノのコンサルティングに関するロイター通信の記事で書かれた2つの点について明らかにしていただくことができないうか、と思います。このロイター記事の中で、当初多くの懐疑論があったが、その後、銀行がそのプロジェクトを支援することについて見違えるほど進展があった、という EBRD 上部の情報提供者の言葉を引用しています。あなた方の総裁レミエール氏は WWF（世界自然保護基金）に11月の終わり、プロジェクトがその時点において EBRD の原理や基準を満たしていないので、支援するという発表が事実になるかどうか分からない、かなり進展のあった3、4あるいは5つの分野を簡単にあげることができる、と明言されました。もし支援の発表が事実でないとしたら、あなた方があなた方の標準や基準に合わせるためにもっと改善を見たがっておられる、2、3あるいは4つの未解決の問題とは何ですか。

2番目の質問も、同じ記事、同じ EBRD 上部の情報提供者に関するものです。その融資を了承するように関連する政府機関から相当の圧力があつた、ということです。あなたは、その政府機関の中に日本政府が含まれていたかどうか明らかにすることができますか。もしできるなら、EBRD の意思決定に影響を与えるために、政府側はどのような活動を行いましたか。

マーク・キング：支援が大幅に広がった、という引用およびレミエール総裁の発言について、11月以来多くのことが起こりました。年の最終週、レンダーグループである我々は、会社とともに河川横断戦略の作成に集中的に取り組み、一連の手段に関して最終的な合意に達し、我々およびコンサルタントは満足しました。このようなできごとは社長の発言の後でありました。これは主な進捗分野の一つです。

その問題に関して、特に河川横断の建設実態に関して過去になにが起こったか、および我々が以前、その状況を喜んでいないとコメントした、など過去に起こったことにもかかわらず、現在我々が、河川横断工事のやりかたや、会社、請負業者、下請業者の全体的な意識の中に大きな改善を見ている、ということ

良く理解することが重要です。更に工事や環境問題の評価のレベルは現場においてかなり向上し、我々はそのことを現場で見えてきました。それは良い開発です。

実行に関して我々が今持っていることは、ある点ではワールドクラスのアプローチですが、それは、責任ある石油会社に対して世界中のどこでも期待されるような種類のアプローチです。我々は河川横断に関して驚異的な改善を見てきました。

コクジラの問題はかなり良く進展しました。おそらく皆様は、最近のバンクーバー会議のレポートを読まれたことでしょう。それは非常に期待できるものでした。

社会問題に関して、それらの多くが非常に良く進展しました。サハリン島の少数民族開発計画は非常に良くできたものの一つです。それは非常に良いドキュメントのクラスに加えられました。

最近数ヶ月、いくつかの主要問題が非常に良く進展しました。まだ始末をつけなければならない問題があり、私がロイターの記者にその話をしてかなり悪く書かれたわけですが、しかし我々の期待と陸上プロジェクトの現実との間のギャップはかなり狭められました。まだ処理中のいくつかの問題がありますが、それらの問題を処理するためのマイルストーン、タイムフレーム、適切なプロセスがあります。

先に申しましたとおり、この建設期間中、我々は利害関係者とともにコンサルティングするだけでなく、プロジェクトの監視もします。我々は数週間前、河川横断現場の視察をしまして、土壌浸食条件が最悪になる5月の雪解けの時期にもう一度、監視のためにプロジェクトを訪問します。

これは進行中の課題の一つの事例です。

圧力に関して、ロイター記事の情報提供者が誰であるかわかりませんが、断固として言わせていただきたいのは、環境部の中でこのプロジェクトに携わり環境上の評価を担当している6名のチームのリーダーとして、プロジェクトに有利になるような融資をするよう我々の関係者から我々に圧力がかけられたことは全くありませんでした。行員から総裁や理事会メンバーまで銀行内のあらゆるレベルの誰もが、我々がやろうとしていることに非常に協力的です。誰もが非常に協力的で環境問題の処理に関して我々が行ってきたことを評価しています。これは、あなたが特に言及された日本についても言えることです。銀行に派遣された者として彼らはかなり協力的です。JBICも非常に協力的であり、我々に対するいかなるプレッシャーもありませんでした。

参加者（通訳）：これは質問ではなく、単に私の評価と意見です。融資を行うかどうかの判断において、この会議がそのような決定を導くための討論の場だと思いますが、しかし、私たちがこれらの問題について討議している時点で、融資に関するあなた方の決定はすでに事前了承済みのように見えます。大衆からの質問や意見を聞いて応えるという明確な意思が、実際にはあなた方に無いように思えます。これは単に自己満足のための機能しかないように見えます。これは全く問題外です。私は、EBRDはSEICに対して融資を行うべきではないと確信しています。

マーク・キング：これらの会議は手軽にできるようなものではなく、実施するのに非常に高くつきます。会議の冒頭で述べたとおり、これら一連の会議の全体目的は、プロジェクトの利害関係者から、プロジェクトの容認可能性、緩和およびモニタリング手法の適切性、いかに環境上の機会をプロジェクトでうまく構築できるか、いかに社会問題をうまく管理できるか、についての意見を収集することです。これはプロジェクトをよりよくする上での課題です。これは数年にわたって非公式に続けられてきました。我々は NGO、政府機関、専門機関からの意見を受け取り、全てはプロジェクトに付加価値を添えてきました。それは単なる机上の実行ではなく現実的な実行です。

ここで提起された問題は我々のチームおよび理事会によってかなり真剣に検討されます。もしアクションプランや融資協定に組み込むべき問題があれば、我々はもちろんそれに対処するつもりです。SEIC はもちろんそのつもりですし、他のレンダーもそうです。それは非常に重要なことで、とても有意義な結果をもたらします。

主任司会者：中立の司会者としてちょっとご質問したいのですが、事前決定が既になされている、という印象を具体的にこの会議のどこでもたれましたか。

参加者（通訳）：このコンサルテーション会議は今回が最後ですか、それとも続けられますか。

主任司会者：私の質問に答えていただけませんでしたね。すいませんがお答えいただけませんか。私はこの議事録を書かなければならないのですが、どうしてあなたが、事前決定がなされている、とお感じになったかを知っておきたいのです。

参加者：この討論の中にコメントがありました。例えば、特別な対策や計画が適切にある、というような。一方、それをどうやって詳しく、あるいは深く検討できるか、についての示唆がありません。それは議論されませんでした。特別な計画があり彼らはなんでも了承している、というのは、私たちが常に受け取る結論です。しかし私たちからすると、非常に判断が難しいです。判断のベースにできるような材料が何もありません。まるで、SEIC に対する融資拡大が既に予定されている、という前提で議論が進められているように見えます。これが前提として機能しているように見えます。

マーク・キング：イントロダクションの冒頭で述べたことを強調させてください。特定プロジェクトに対する融資の決定は役員による理事会によって決定されます。役員理事会は 60 カ国の代表および欧州委員会、欧州開発銀行で構成されます。それぞれの決定は、理事会で投票権を持つメンバー各国の役員に対して、環境省、財務省、外務省、漁業機関、様々な政府機関から意見が寄せられる中で行われる複雑な決定です。

その手続きはまだ取られていません。おそらく大部分の国々はまだプロジェクトに対する意見をもっていないと思われます。ですからプロジェクトが承認されるだろう、という仮定はどこからも出てこないのです。それは、ここに座っている我々の決定ではありません。それは我々、プロジェクトチームとしてここに座っている我々が決められることではありません。そしてそれは誰かが予想できるようなものでもありません。それはとても複雑な手続きであり、非常に開かれたものなのです。

参加者（通訳）：印象について具体化する、あるいは印象をよくする、ということについて述べるのは非常にむずかしいです。まるであなた方は、前提条件をもとにした判断、あるいは予想された判断、という事実の輪郭を描いているように見えます。

EBRD から、あなた方は、非常に積極的な行動、前向きな行動をとることが重要だ、と述べられました。私は全体としてそれに賛成ですが、しかし多数の意見にも注意を向けなければなりません。SEIC から提供されたものと私が検証できたものとの間に、数字の上で6つの差異がありました。その事実を解決できないかぎり - 数が観察されたものの6分の1に減らされた、ということをおっしゃっていただきます。EBRD は、プロジェクトが実行された後で、悪い影響について実際には何も変えられなかった、と言うでしょうが、私が入手できた既知の数字によると、個体数が事実の6分の1に減らされています。おっしゃるとおり、私たちが非常に積極的なアプローチをとることが重要です。それは完全に正しいですが、私たちが適切な事実を得られないかぎり、プロジェクトの実行の後でどんな結果が得られるかを検証することは難しいです。あなた方が事実を反映したデータを起点とするか、それとも実際の6分の1のベンチマークのデータを取るか、には違いがありますから、事実を知らない限り、私たちは予定を立てることができません。

積極的なアプローチを取ることが重要だ、という点に私は同意しますが、データが立証可能であることも重要です。データが不足であれば、もっと蓄積しなければなりません。あなた方は、そのような提案を受け入れるべきだと思います。これが私の意見です。

主任司会者：他に意見はございませんか。皆様、この会議において、非常に多くの価値のあるご意見をいただき、まことにありがとうございました。この会議および一連の公開コンサルテーション会議は、公開コンサルテーションプロセスのごく一つの要素で、それは公式には4月21日に完了します。皆様が銀行に送りたい、その他の手紙、プレゼンテーション、意見などは郵便またはEBRDのWebサイトを通じて可能です。マーク氏が述べたとおり、これは公開コンサルテーションプロセスの終わりではありません。これはこの件の中断ではありませんから、その日付以降でも皆様の批評や意見を続けることができます。これらの会議の記録を終わりたいと思います。EBRDの年次総会の前である5月中旬前までにドラフトを入手できるよう期待しています。もしできないとすれば、その理由は技術的なことだけです。ご想像できるとおり、我々は6つの会議をもち、そのうち一つだけが英語で行われましたから、3時間の会議の議事

録は翻訳され書き直されなければなりません。それらがロシアを通じてモスクワ、サハリン、そしてここから届けられたら、翻訳にまわされる前に、私が一度全てに眼を通す必要があります。願わくば、それが EBRD の年次総会の前でありますように。

非常に素晴らしいお仕事をされた通訳の皆様にご感謝申し上げます。ご参加ありがとうございました。私自身にとってもこのプロジェクトに関与し、ロンドンに始まり、ロシアを通して、ここ札幌で終了する一連の会議で討論のお手伝いをするようになったことは非常に興味深いことでした。今日、ここで私たちを助けるためにご尽力いただいたピーター・デビッド氏にも感謝申し上げます。

キング：EBRD の代表として、今日ここにごお越しいただき討論に参加していただいた皆様にご感謝いたします。特に生物多様性問題や石油流出問題について、皆様の中から追加の対応をしていただくことができれば幸いです。この一連の会議の進行ですばらしい働きをされた、司会の皆様と通訳の皆様にご感謝いたします。
